2018年3月期　決算説明会

開催日：2018年5月17日（木）

2018年5月17日にアナリスト・機関投資家の方々を対象とした
「2018年3月期　決算説明会」を開催いたしました。
決算概要、業績予想、第9次中期経営計画（Challenge 1500）進捗について
説明いたしました。
内容につきましては、次ページ以降に掲載しておりますのでご覧ください。

2018年3月期　決算説明資料

2018年5月17日
サンワテクノス株式会社

本資料取扱い上の注意点

- この資料には、当社の将来についての計画や戦略、業績に関する予想見通しの記述が含まれています。

- これらの記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済や当社の関連する業界動向、新たな技術の進展等により変動することがあり得ます。

- 従いまして、実際の業績等が記載の予想数値と異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。

- 2018年3月期 決算概要
- 2019年3月期 業績予想
- 第9次中期経営計画(Challenge 1500)進捗

- 2018年3月期 決算概要
- 2019年3月期 業績予想
- 第9次中期経営計画(Challenge 1500)進捗

連結決算の概要について

・連結経営成績が過去最高

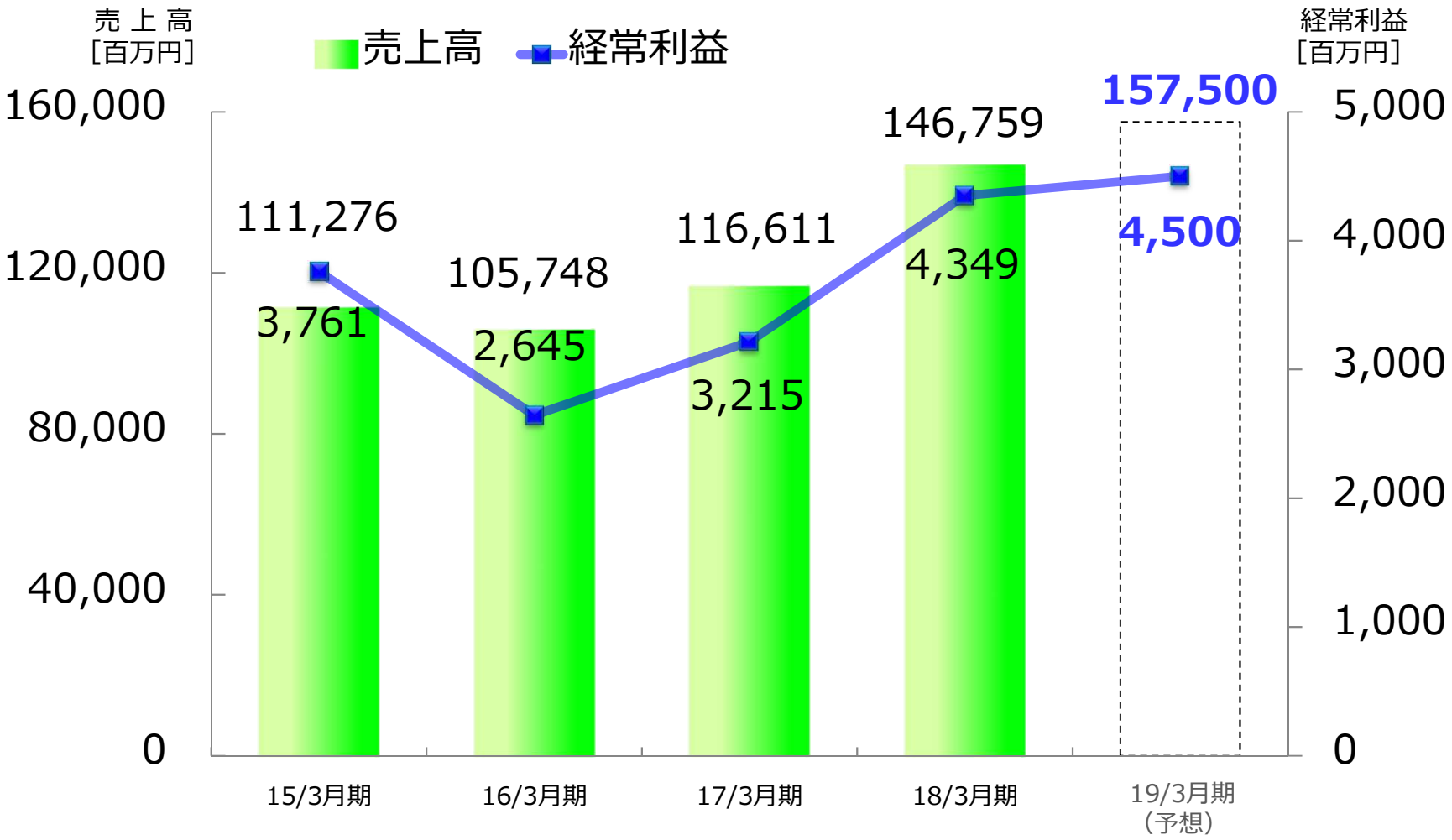
（単位：百万円）

	前期	当期	増減額	対前年同期 増減率
売上高	116,611	146,759	30,147	25.9%
営業利益	3,014	4,135	1,121	37.2%
経常利益	3,215	4,349	1,133	35.3%
当期純利益 （※）	1,584	3,085	1,501	94.8%
1株当たり 当期純利益	113.64円	222.65円	109.01円	95.9%

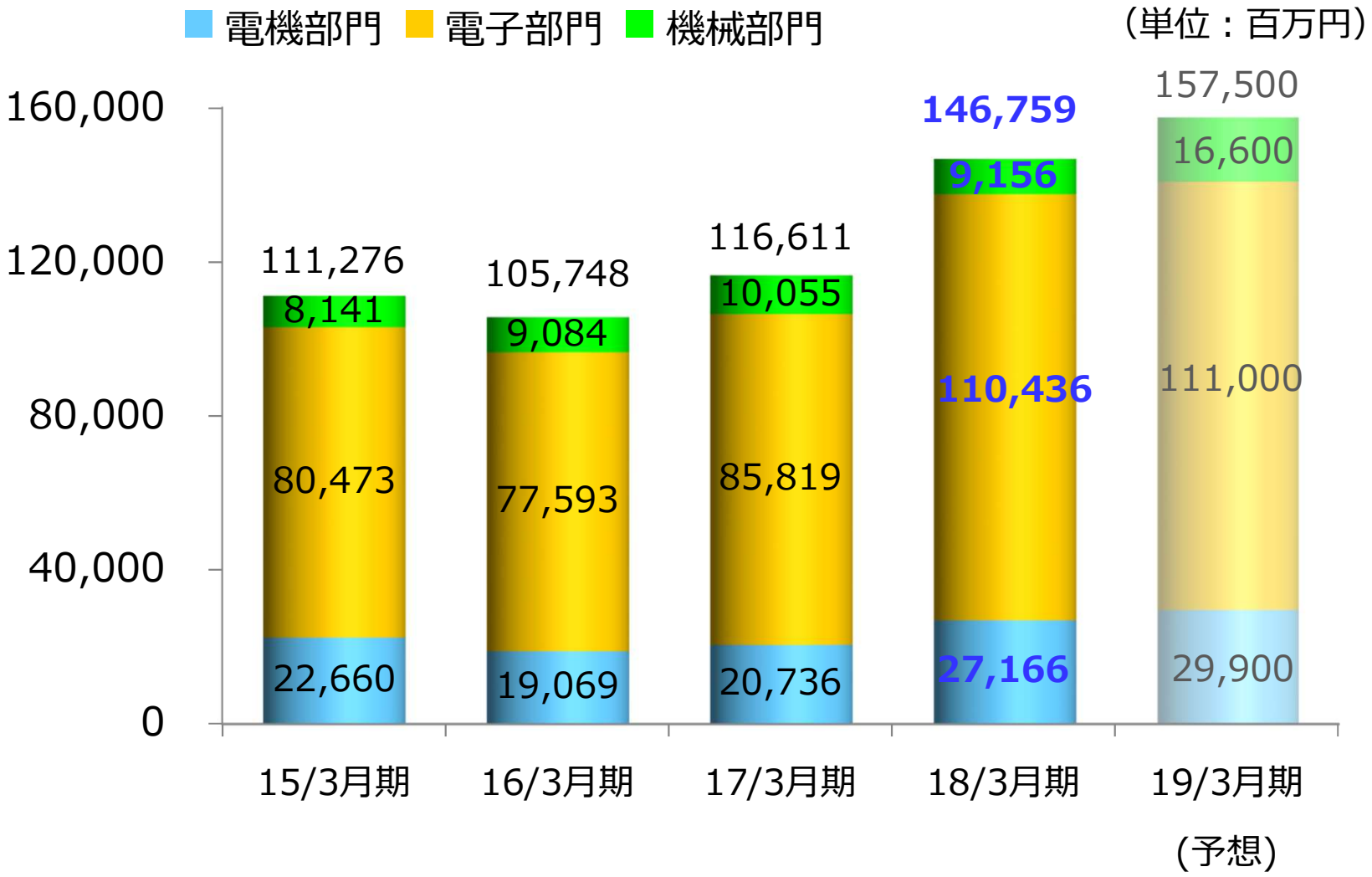
【連結決算の概要について】
電機・電子・機械分野の最新技術と優れた製品情報を融合させたコアビジネスに、ものづくりの先鋭化をサポートするエンジニアリング力とグローバルSCMソリューションをプラスし、グローバルに活躍する独立系技術商社として新たな価値を生み出す取組みが効果を上げ、連結経営成績が過去最高を更新いたしました。

（※）親会社株主に帰属する当期純利益

売上高及び経常利益推移（連結）



部門別 売上高推移表

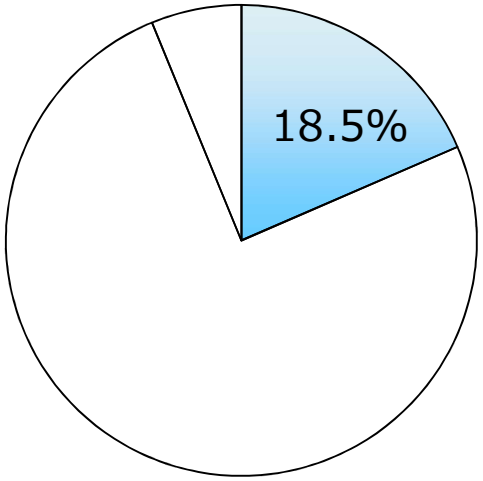

電機部門
電子部門
機械部門
（単位：百万円）
160,000
120,000
80,000
40,000
0
111,276
8,141
80,473
22,660
105,748
9,084
77,593
19,069
116,611
10,055
85,819
20,736
146,759
9,156
110,436
27,166
157,500
16,600
111,000
29,900
15/3月期
16/3月期
17/3月期
18/3月期
19/3月期
(予想)

部門別の概要【電機部門】

■売上高

2018年3月期　27,166百万円（前期比　31.0%増）
2017年3月期　20,736百万円（前期比　8.7%増）

■売上高構成比率



■売上高推移表

（単位：百万円）

	15/3月期	16/3月期	17/3月期	18/3月期	19/3月期（予想）
売上高構成比率	20.4%	18.0%	17.8%	18.5%	19%

■point

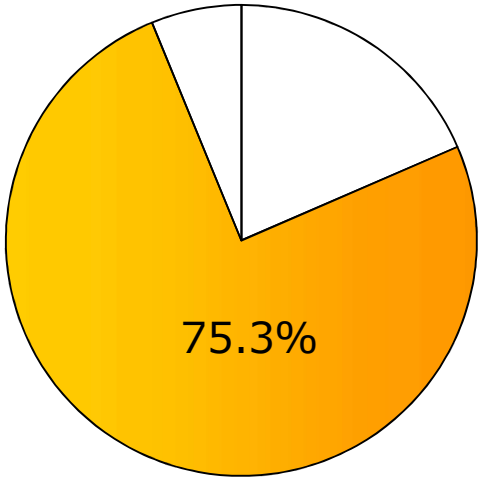
・有機ＥＬ設備向けの電機品の販売が増加
・半導体関連業界向け及び産業機械業界向けの電機品の販売が増加

部門別の概要【電子部門】

■売上高

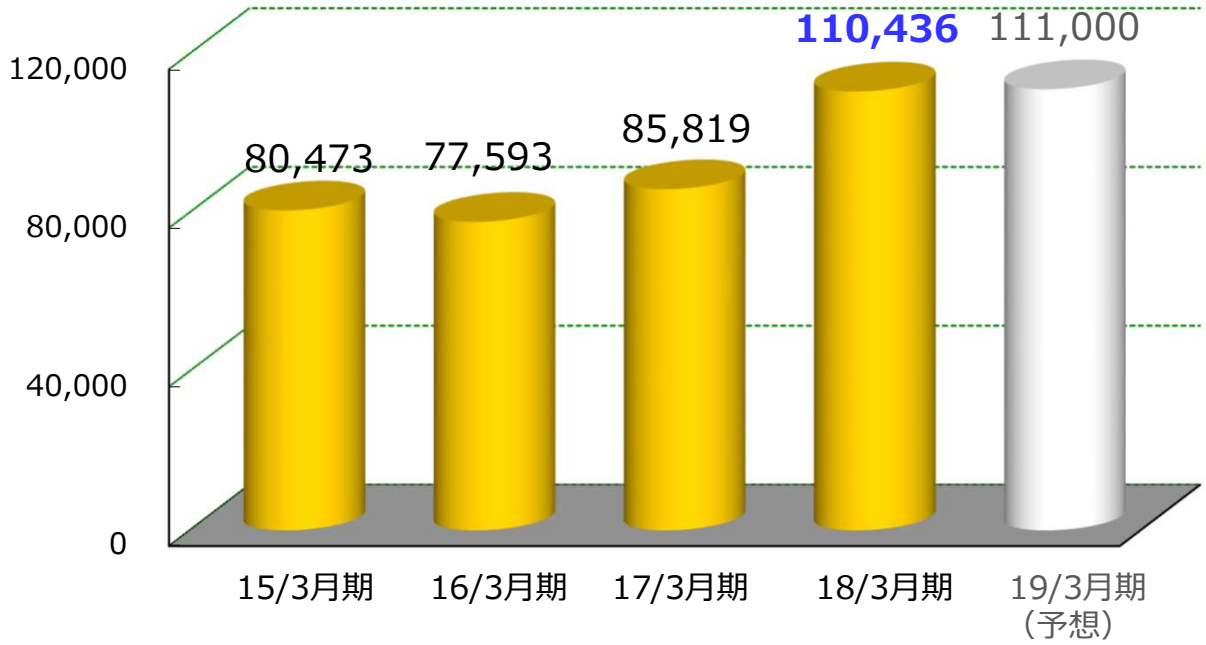
2018年3月期　110,436百万円（前期比　28.7%増）
2017年3月期　　85,819百万円（前期比　10.6%増）

■売上高構成比率



■売上高推移表

（単位：百万円）



売上高構成比率	72.3%	73.4%	73.6%	75.3%	70%

■point

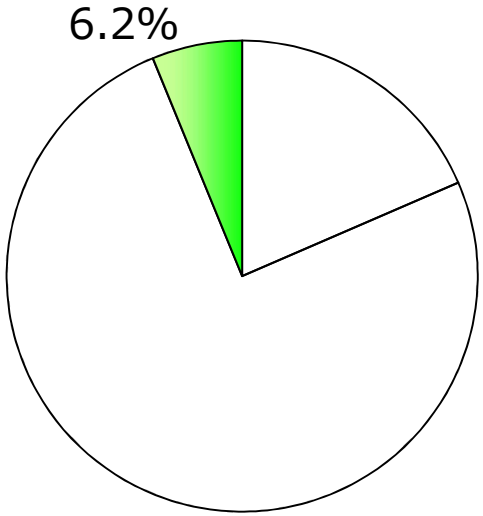
・産業機械業界向けの電子部品の販売、電子機器の販売が増加
・自動車関連業界向けの電子部品の販売が増加

部門別の概要【機械部門】

■売上高

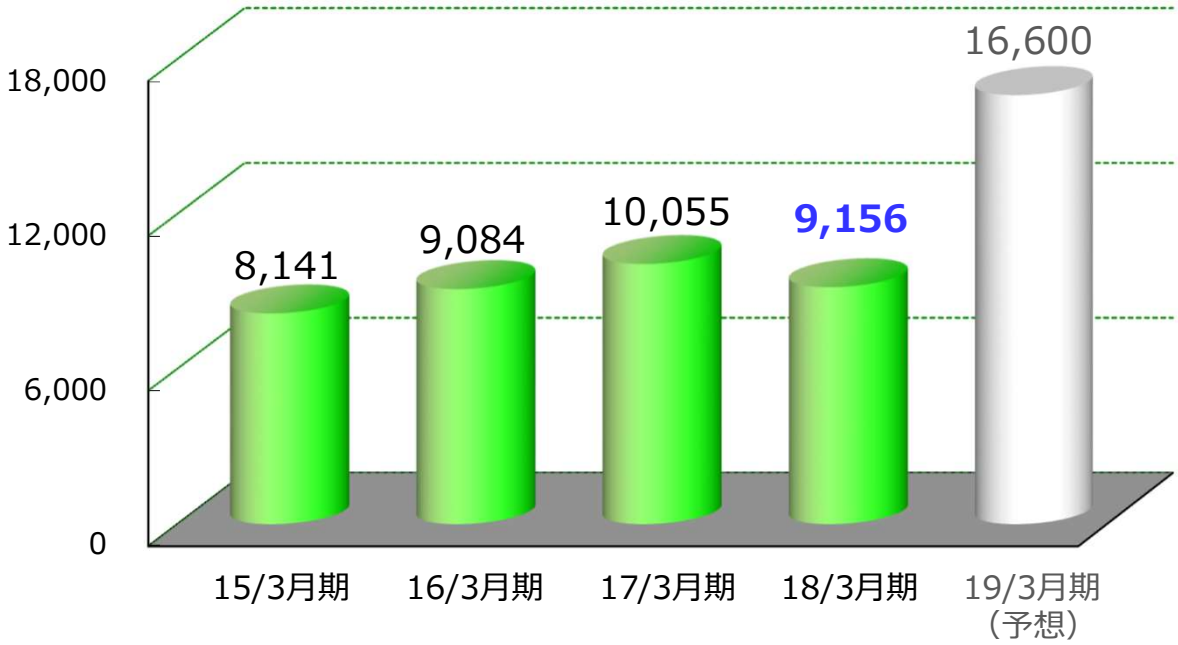
2018年3月期　9,156百万円（前期比　8.9%減）
2017年3月期　10,055百万円（前期比10.7%増）

■売上高構成比率



■売上高推移表

（単位：百万円）



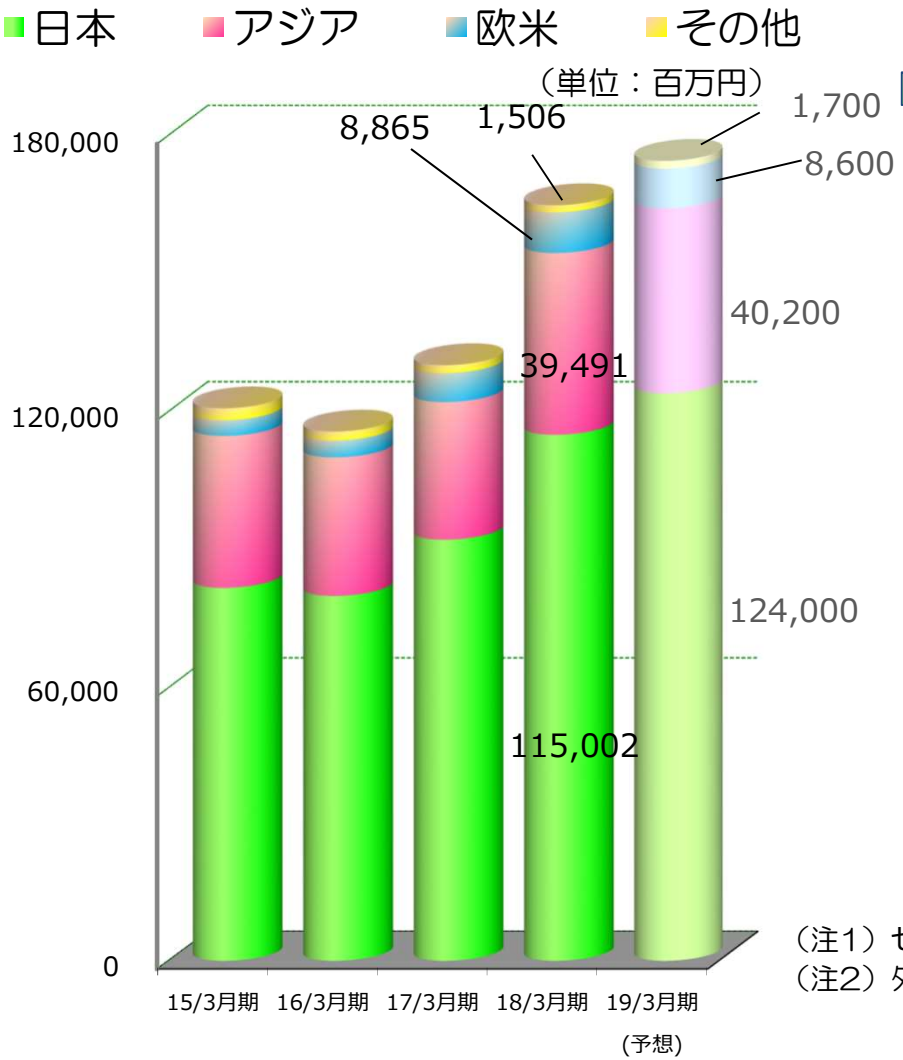
売上高構成比率	7.3%	8.6%	8.6%	6.2%	11%

■point

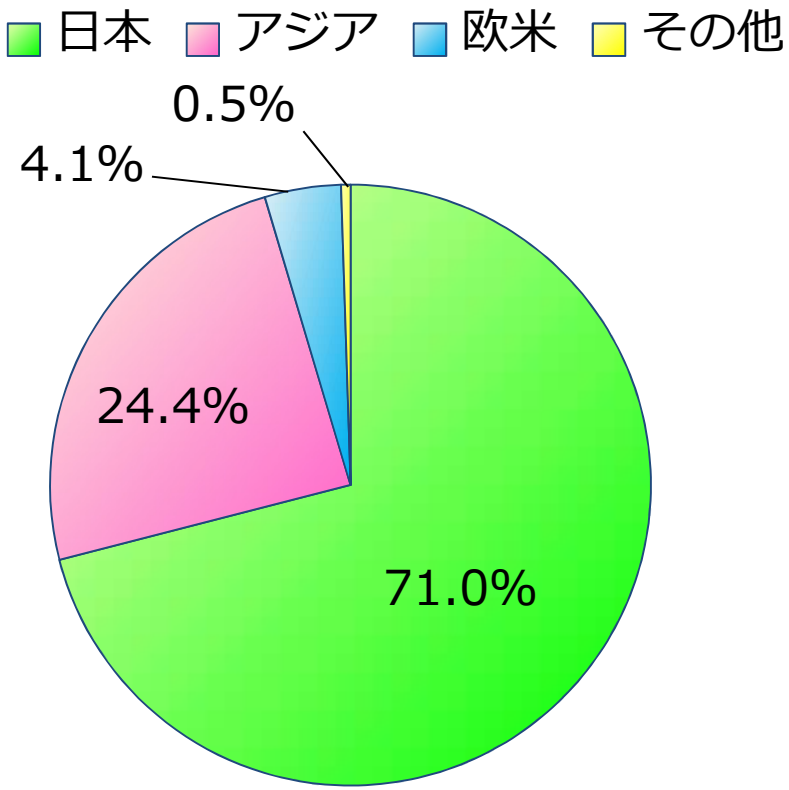
・FPD（フラットパネルディスプレイ）関連業界向けの生産設備の販売が一部増加
・産業機械業界向けの生産設備の販売が減少

セグメントの概要

■売上高（注1）



■売上高構成比率（18/3月期）（注2）



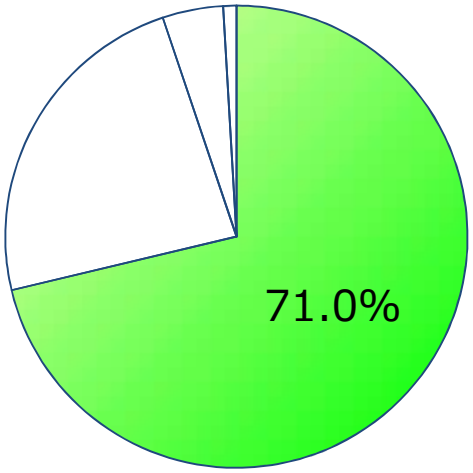
（注1）セグメント間の内部売上高又は振替高を含む売上高
（注2）外部顧客に対する売上高

セグメントの概要【日本】

■売上高
2018年3月期 115,002百万円（前期比　24.7%増）
2017年3月期　92,213百万円（前期比　15.3%増）

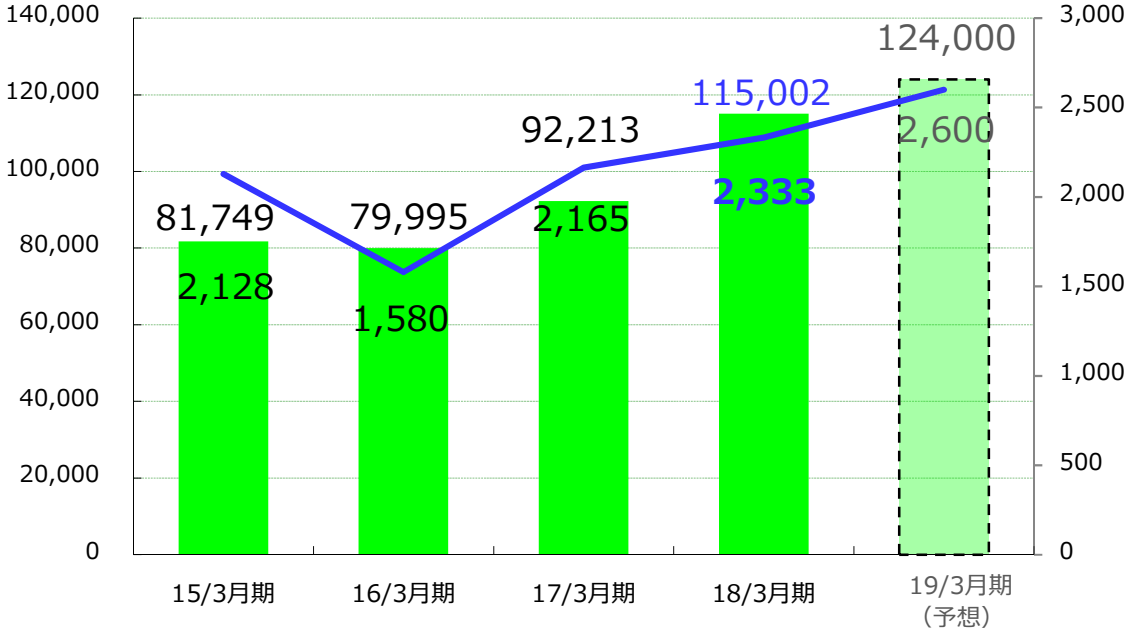
■営業利益
2,333百万円（前期比　7.8%増）
2,165百万円（前期比 37.1%増）

■売上高構成比率（注2）



■売上高・営業利益推移表（注１）

（単位：百万円）



	15/3月期	16/3月期	17/3月期	18/3月期	19/3月期（予想）
売上高構成比率	68.5%	69.7%	71.3%	71.0%	71%

■point
・自動車関連業界向けの電子部品の販売が増加
・産業機械業界向けの電機品、電子部品及び電子機器の販売が増加
・FPD（フラットパネルディスプレイ）関連業界向けの生産設備の販売が一部増加
・産業機械業界向けの生産設備の販売が減少

（注1）セグメント間の内部売上高又は振替高を含む売上高
（注2）外部顧客に対する売上高

セグメントの概要【アジア】

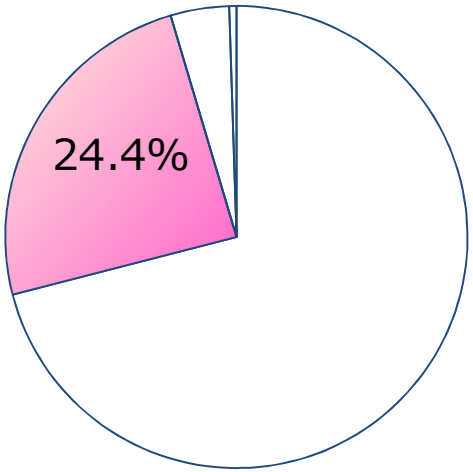
■売上高

2018年3月期	39,491百万円	（前期比32.1%増）
2017年3月期	29,896百万円	（前期比 0.7%減）

■営業利益

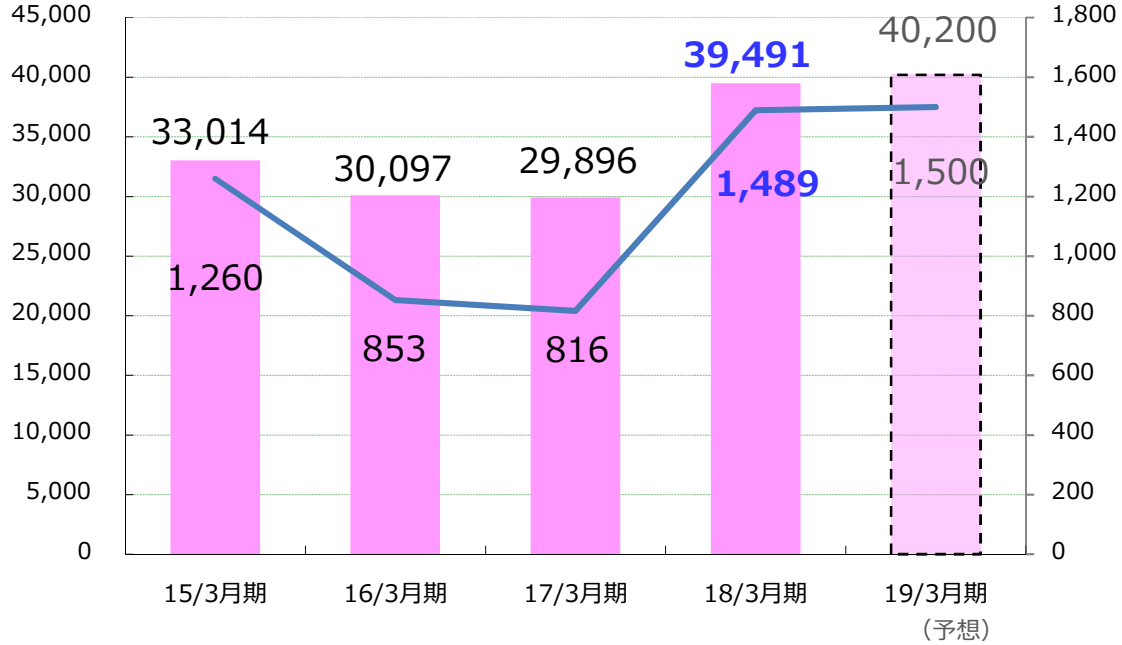
	1,489百万円	（前期比82.4%増）
	816百万円	（前期比 4.3%減）

■売上高構成比率（注2）



■売上高・営業利益推移表（注１）

（単位：百万円）



売上高構成比率	27.3%	25.9%	23.6%	24.4%	23%

■point

・産業機械業界向けの電子部品の販売及び電機品の販売が増加

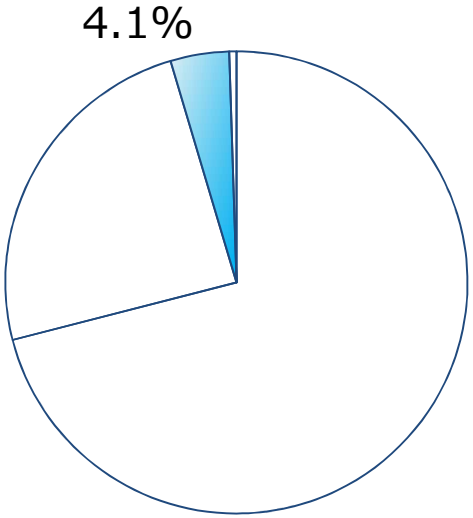
（注1）セグメント間の内部売上高又は振替高を含む売上高
（注2）外部顧客に対する売上高

セグメントの概要【欧米】

■売上高
2018年3月期　8,865百万円（前期比40.2%増）
2017年3月期　6,323百万円（前期比71.6%増）

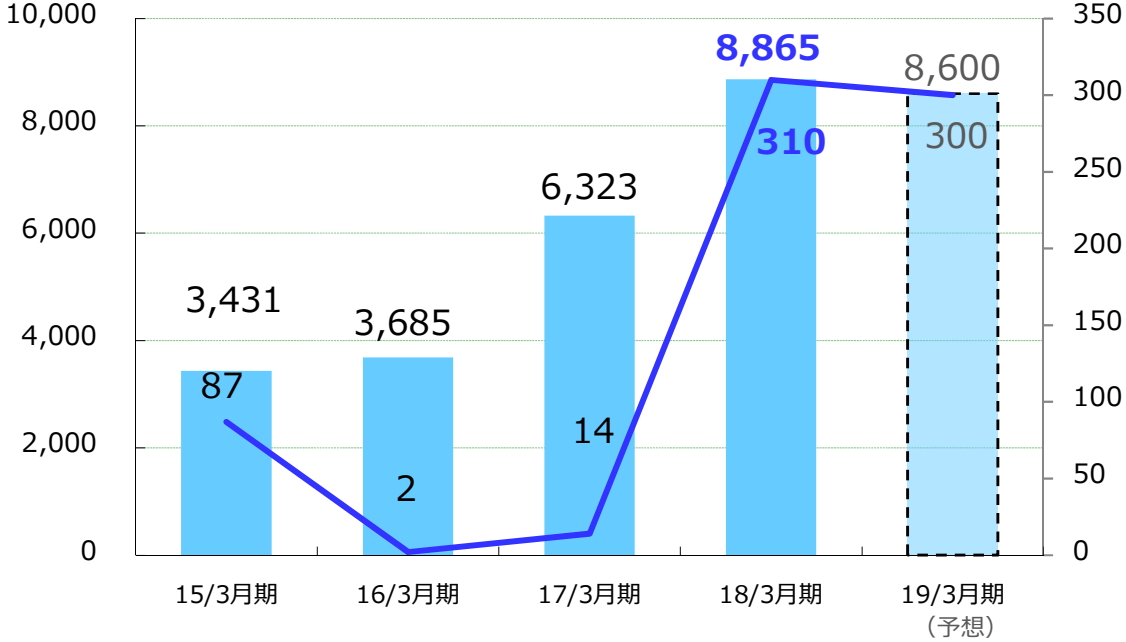
■営業利益
310百万円（前期は14百万円）
14百万円（前期は　2百万円）

■売上高構成比率（注２）



■売上高・営業利益推移表（注１）

（単位：百万円）



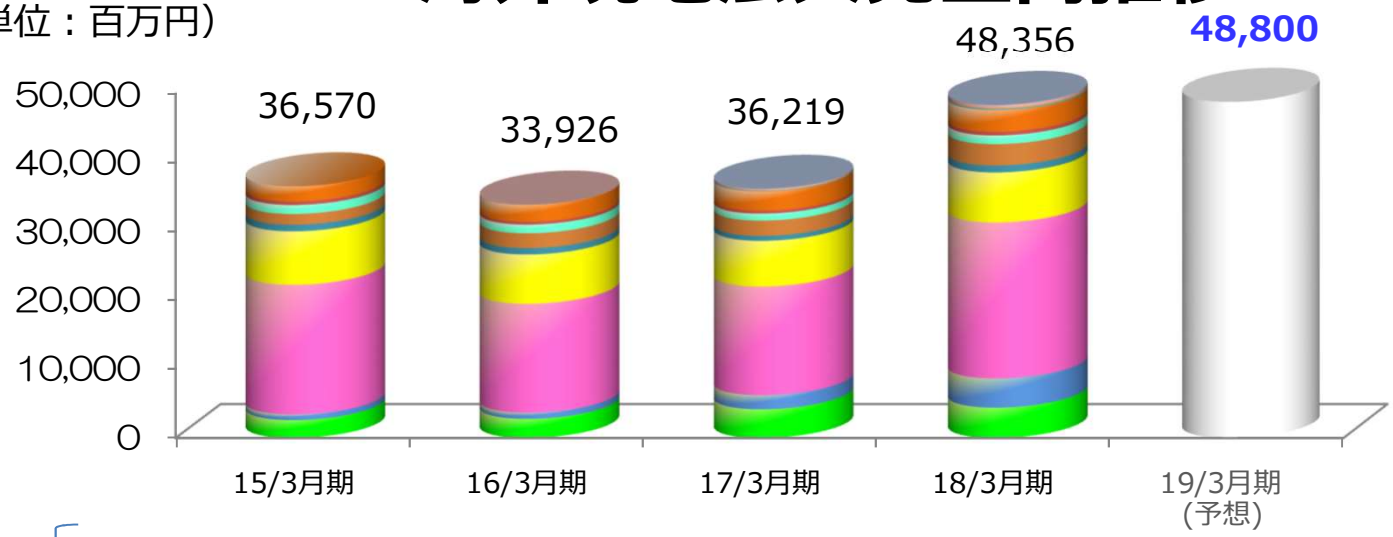
売上高構成比率	2.8%	3.3%	4.2%	4.1%	4%

■point
・有機ＥＬ設備向けの電機品の販売が増加
・産業機械業界向け及びアミューズメント向けの電子部品の販売が増加

（注1）セグメント間の内部売上高又は振替高を含む売上高
（注2）外部顧客に対する売上高

海外現地法人売上高推移

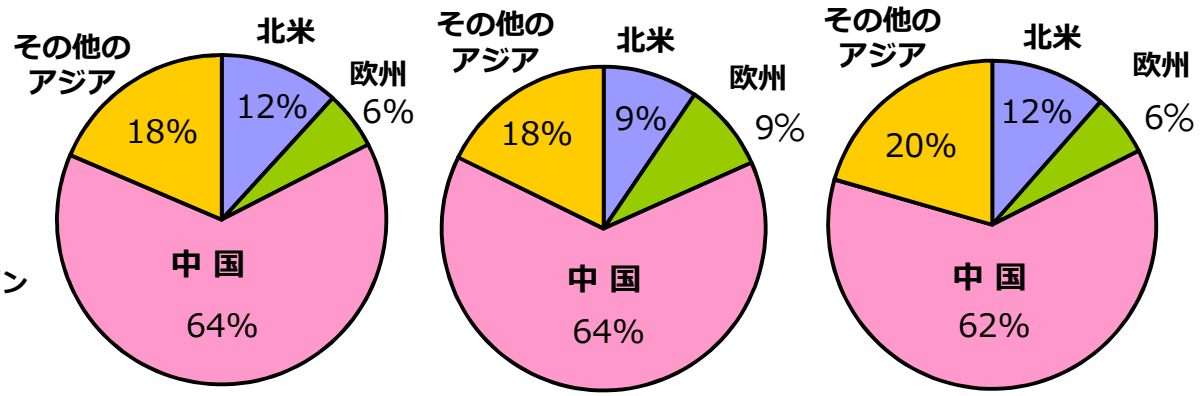
（単位：百万円）



		15/3月期	16/3月期	17/3月期	18/3月期	19/3月期（予想）
（参考）主な通貨の為替レート	1米ドル	120.55円	120.61円	116.49円	113.00円	110.00円
	1ユーロ	146.54円	131.77円	122.70円	134.94円	127.00円
	1中国元	19.70円	18.57円	16.79円	17.29円	16.80円
海外事業の売上高比率		32.9 %	32.1 %	31.1 %	32.9 %	31.0 %

海外売上高構成

- 北米 ・・・アメリカ、メキシコ
- 欧州 ・・・ヨーロッパ
- 中国 ・・・上海、香港、深圳
- その他のアジア ・・・シンガポール、台湾、マレーシア、タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナム



受注高・受注残高の推移（連結）

（単位：百万円）

	前期	当期	増減額	対前期増減率
受注高	120,863	153,527	32,664	27.0%
受注残高	20,839	27,608	6,768	32.5%

過去最高の受注高、受注残高

■受注高

■受注残高

2018 年3月期 （個別）業界別売上高・主要仕入先

得意先（業界）	対前年同期増減（矢印） 及び シェア（%）					
	2016/3		2017/3		2018/3	
ＦＡ・産業機器	→	29.8%	↗	27.8%	↗	26.3%
自動車	↗	8.5%	↗	11.1%	↗	14.5%
半導体・液晶	↘	9.8%	↗	12.6%	↗	12.4%
情報・通信	↘	4.0%	↗	3.8%	↗	4.5%
社会インフラ	→	3.7%	↗	3.4%	↗	3.0%
ロボット・マウンター	↘	2.3%	↗	2.5%	↗	2.8%
工作機械	↗	2.3%	→	2.0%	↗	1.9%
アミューズメント	↘	6.6%	↘	3.3%	↘	1.8%
医療機器	↗	1.8%	↘	1.4%	↗	1.2%
環境・エネルギー	↘	2.5%	↘	1.7%	↘	1.1%
セキュリティ	↗	0.7%	↗	1.5%	↘	1.0%
食品	↗	0.2%	↗	0.3%	↘	0.2%

仕入先
㈱安川電機
リコーインダストリアルソリューションズ㈱
オムロン㈱
ミネベアミツミ㈱
TDKラムダ㈱
フエニックス・コンタクト㈱
ケル㈱
JABIL CIRCUIT LTD.
スタンレー電気㈱
オムロン直方㈱
その他の仕入先で約60%（約1,900社）

配当金の推移

期	中間	期末	年間	配当性向 連結
１5/３月期	１２円	１４円	２６円	15.1%
１6/３月期	１４円	１４円	２８円	23.8%
１7/３月期	１４円	１４円	２８円	24.6%
１8/３月期	１４円	１６円 (予定)	３０円 (予定)	13.5%
１9/３月期	１７円 (予想)	１７円 (予想)	３４円 (予想)	17.3%

※当社は、株主の皆様に対して安定した配当を継続するとともに、業績の進展状況により増配や株式分割などを実施して行くことを基本方針としています。

- 2019年3月期 業績予想
- 第9次中期経営計画(Challenge 1500)進捗

2019年3月期　業績予想について（連結）

（単位：百万円）

	2018年3月期 実績	2019年3月期　業績予想			対前期(通期) 増減率
		上期	下期	通期	
売　上　高	146,759	**78,500**	79,000	**157,500**	**7.3%**
営業利益	4,135	**2,250**	2,200	**4,450**	**7.6%**
経常利益	4,349	**2,300**	2,200	**4,500**	**3.5%**
当期純利益（※）	3,085	**1,600**	1,550	**3,150**	**2.1%**

（業績予想の前提となる為替レート　１米ドル＝110円　１ユーロ＝127円　1中国元＝16.8円）

【2019年3月期の見通し】

東アジア地域における地政学リスク、欧米の政治的な混乱などの影響が懸念され、景況に関する先行きは不透明な状況が続くと見込まれますが、企業収益や雇用環境の改善によって景気は緩やかに回復していくことが期待されます。このような情勢のもと、当社の関連しております半導体関連業界・産業機器業界及び自動車関連業界向けの需要は引き続き堅調を維持しており、増収増益の業績予想となっております。

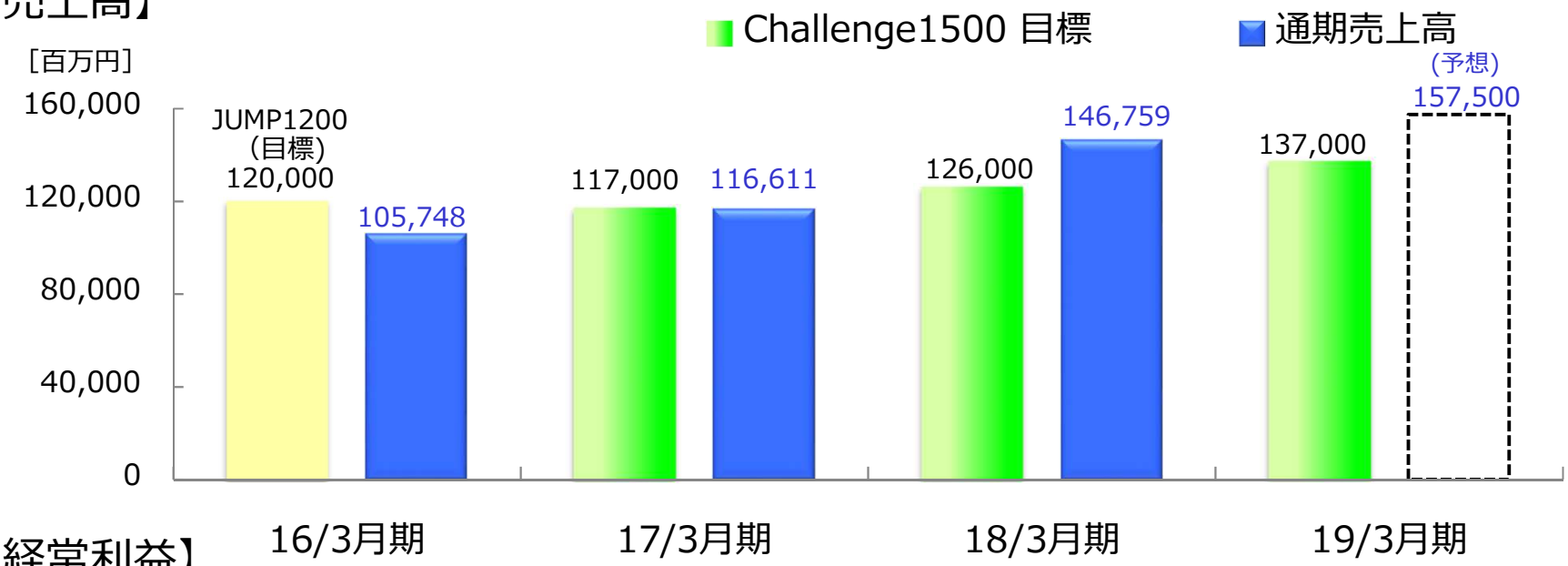
（※）親会社株主に帰属する当期純利益

- 第9次中期経営計画(Challenge 1500)進捗

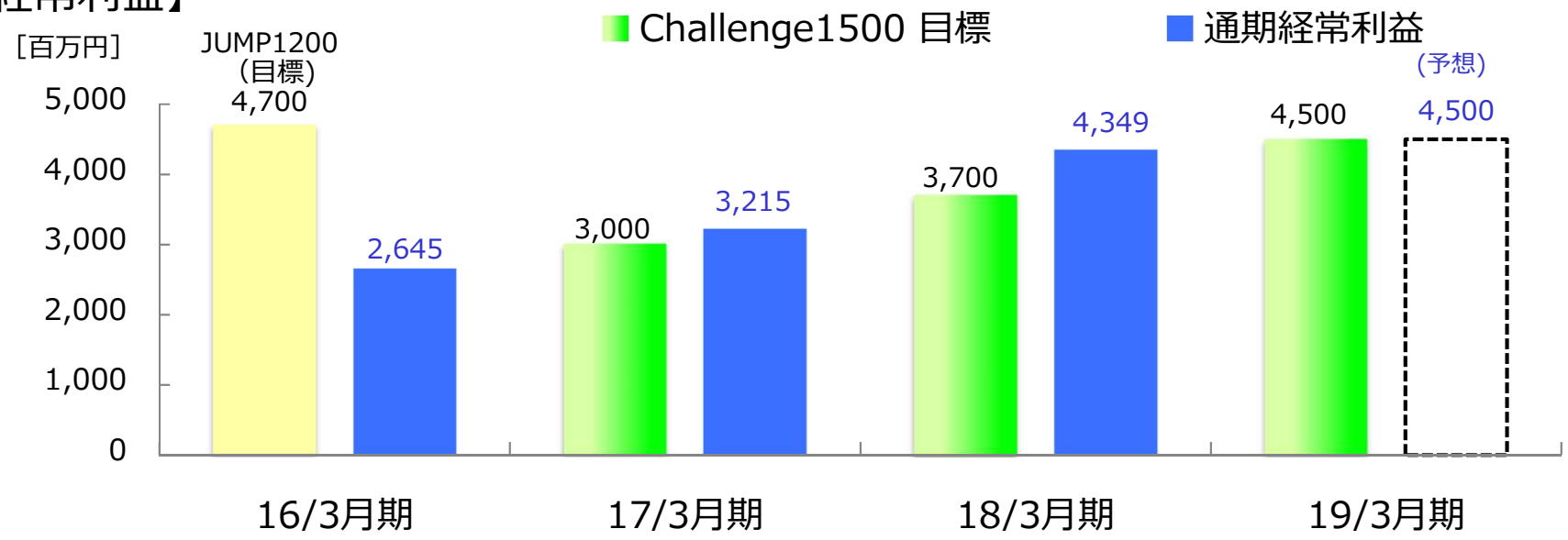
【第9次中期経営計画(Challenge1500)】

売上高及び経常利益推移（連結）

【売上高】



【経常利益】



エンジニアリング事業

自動化システム、省エネ製品を提案しお客様のものづくりを支援します

- ＩＣＴ技術を活用した「未来のものづくり」を目指す
- ロボットを活用した 自動化システムの提案
- 省エネや省電力を目指したシステム提案

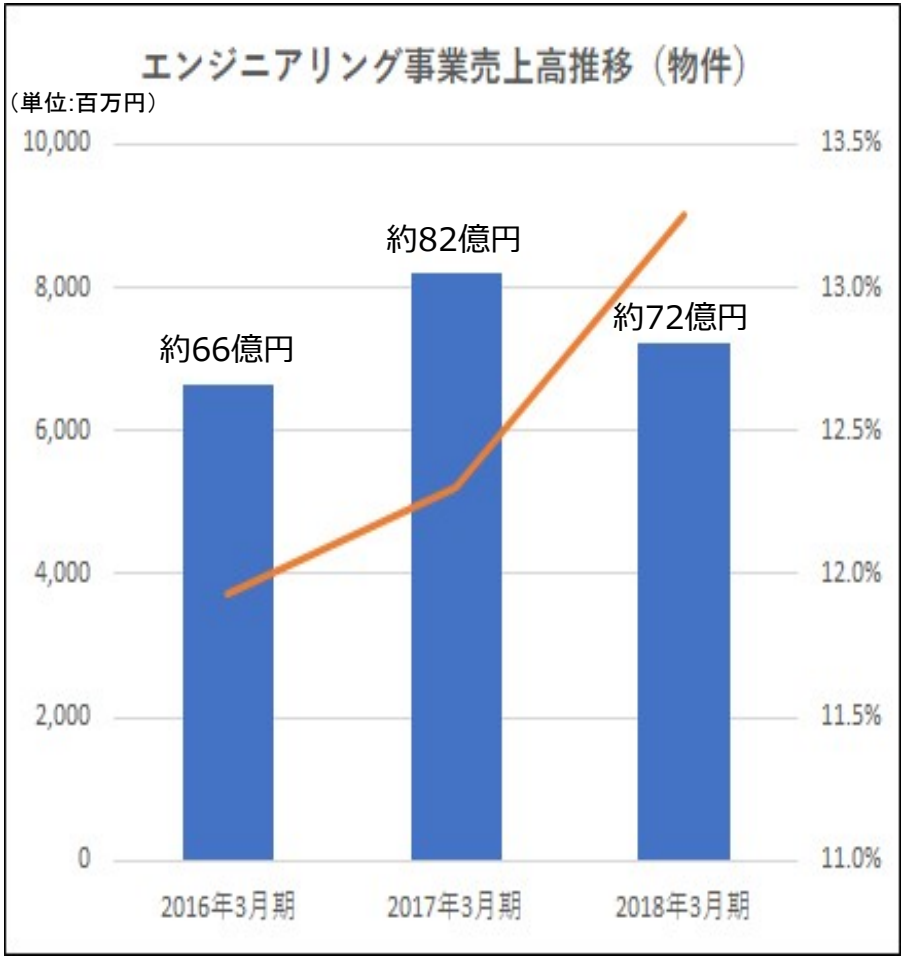
2017年4月
メカトロニクス営業部・機械システム営業部をFAシステム営業部へ統合

（目的）
電機・機械を統合することで総合力を高め、エンジニアリング事業のさらなる強化を図る

2017年10月
エンジニアリング部の組織を再編

（目的）
より社内連携を図る為に、組織ごとの役割を明確にしエンジニアリング事業を積極的に提案できる体制が整う
（ロボット推進課、ＩｏＴ推進課、監視制御推進課、自動認識推進課、電機技術課、技術サービス課）

従来仕入高実績で表していた事業規模を物件売上高へ変更。売上高は2017年3月期に比べやや減少したものの、利益率は順調に推移。



グローバルＳＣＭソリューション事業

お客様の物流業務を包括的に受託し、最適ソリューションで資材調達から
生産、販売、リサイクルに至る一連の企業活動における物流合理化による
お客様のコア事業の拡大支援を実現します

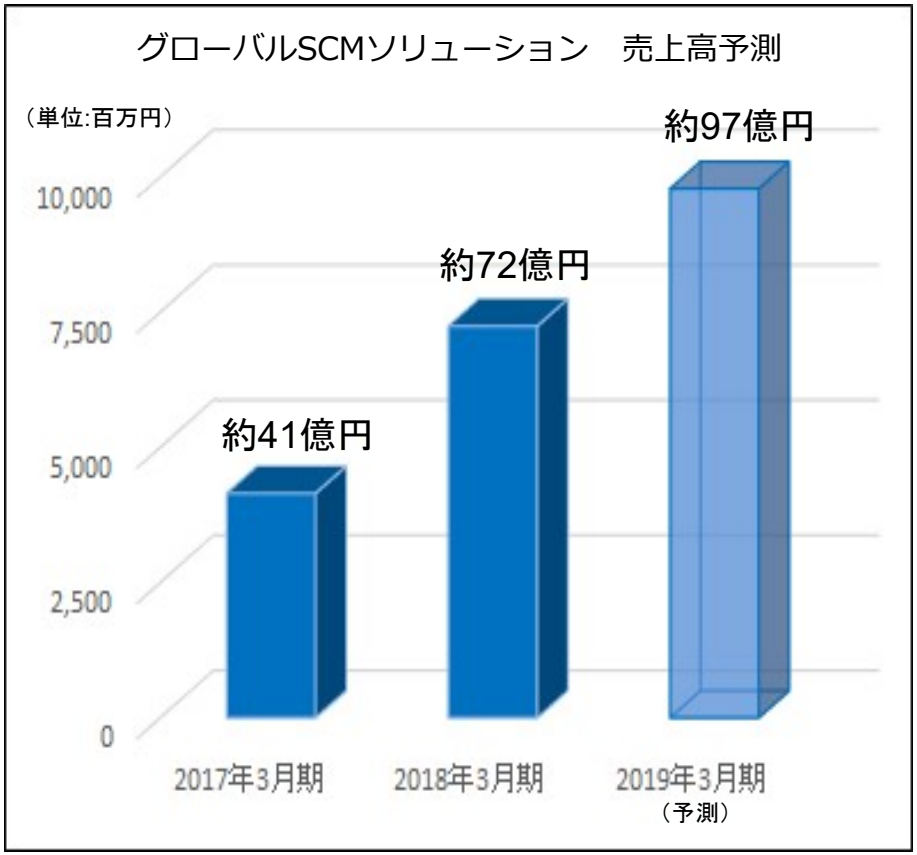
- 生産移管などお客様のものづくりの支援（移管作業の効率運用）
- グローバルネットワークを駆使し、最適商流・調達を提案
- 現地調達の支援（現地メーカーの紹介と工場監査の支援）

【商談事例】

➢航空機内AVシステム向けタッチパネル
（OUT-IN）
部材を台湾から日本へ

➢家庭用ミシンメーカー用基板実装
（OUT-OUT）
部材を中国からベトナムへ

➢VMI倉庫運用案件
（IN-OUT）
部材を日本からシンガポールへ



（TOPICS）

◆組織変更について（2018年4月）

【概要】

（開設）	（設置）	（再編）
関東支社（所在地：本社）	営業企画室	品質管理部
関西支社（所在地：大阪支店）	広域営業部	
国際本部		

【目的】

第９次中期経営計画（Challenge1500)の最終年度にあたり、営業戦略推進、地域密着と顧客密着のそれぞれの特徴を活かした営業活動、海外ビジネスの拡充を目的に、2018年4月1日に組織変更を行いました。

◆公募増資について（2018年4月）

（概要）		（払込金額）
公募による新株発行	1,321,000株	3,164百万円
公募による自己株式の処分	579,000株	
第三者割当による新株式発行	285,000株	
合計	2,185,000株	

（背景）

・事業規模の拡大を目指して、取引の拡大を見据えた資金調達。
・財務体質の充実を図り、事業環境の急激な変動に対応できる企業体質の確立と、海外展開等の積極的な事業展開に対し柔軟に対応するため。

以上のように、高い成長性・収益性・安定性を求めて、経営に努力してまいりますので、今後も一層のご支援を賜りたくお願い申し上げます。